

専攻科 7月2日 (水)

第6回講座 「自然観察の知識と実践 (1)」

講師 北澤光子氏 (技術士 環境部門)

日時 平成26年7月2日 (水) 10:00~15:00

場所 市川市自然観察園

テーマは、五感を活かした自然観察

北澤光子講師による自然観察講座。この講座では同じ地を初夏と冬に2回訪れ、自然の変化を観察する。東葛地域の地形、自然がよく維持管理されている長田谷津がフィールド。市川市が誇る自然である。市川自然博物館に集合し、1時間、座学で自然観察のことを学び、その後フィールドに出かけて北澤流の自然観察を体験してみた。

初めに博物館の須藤学芸員から、この谷津が開発されずに残された経緯についての説明を受けた。この後、北澤講師による40分の座学と3時間の野外での自然観察講座が始まる。自然観察とは、自分の眼、耳で、鼻など五感を働かせて自然を確認することであり、観察するものは、珍しいものだけでなく、見慣れたものでもじっくりみるのが大切であると講師は強調された。フィールドでこの考えに基づき実際に自然観察を行ってみた。

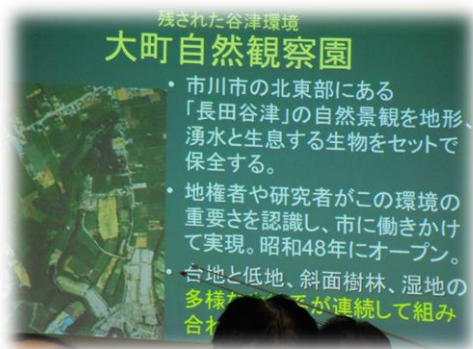
植物や昆虫の名前にとにかくこだわってしまう受講生を講師はやわらかくけん制しながら、ヤブガシの葉に触れ、蜜を吸い、ヘクソカズラの匂いを嗅ぎ、目をつぶって神経を集中させて鳥の鳴き声を聞いたり、地面に這いつくばって虫の目線で眺めてみたりと、五感を使った自然観察を指導された。それぞれの観察ポイントでは携帯温度計で温度を測定された。一番高かったのはマンホール蓋で50℃、コンクリート道路が37.5℃、土の表面28℃、湧水18℃。最後に、冬虫夏草が観察できるポイントに引率されたので、珍しい植物を観察することもできた。探してみると、5、6箇所ですく頭を出している冬虫夏草を発見した。



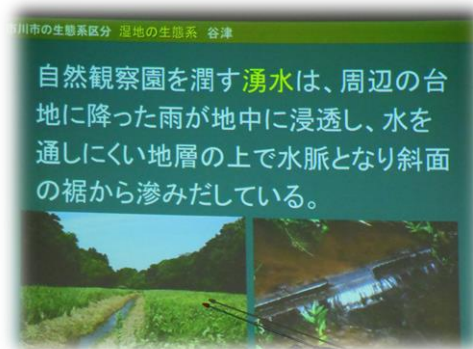
北澤 光子講師



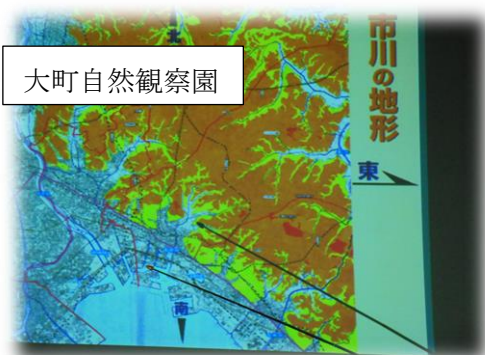
市川市自然博物館の須藤学芸員



谷津環境が残された貴重な大町自然観察園について、須藤学芸員の話聞く。



谷津にとって湧水はなくてはならない存在。少し詳しく説明された。



大町自然観察園はどこに位置するのだろうか？ 縄文海進期に形成された下総台地に刻まれた谷津にある。



自然観察とはどんなことをするのか、これを理解することから講義が始まった。



1時間の座学を聞いて、フィールドの谷津に出かけた。



斜面林についての解説を受ける。



ヤブガラシは昆虫が好きな葛。形状を見て、葉を触ってみたり、赤い実の蜜を舌で味わったりしながら観察した。



その独特の匂いのためイメージが良くないヘクソカズラ。こんなにも可憐な花を咲かせていた。



谷津の裾野を流れる湧水。台地に降った雨が谷津の低地に湧き出る。手を浸してみると冷たくて心地よかった。



これは珍しい！めったに見ることができない冬虫夏草を見かけた。4、5か所で頭を覗かせていた。



観察行動中の様子です。



昼食をとった鑑賞植物園